

株主通信

第79期

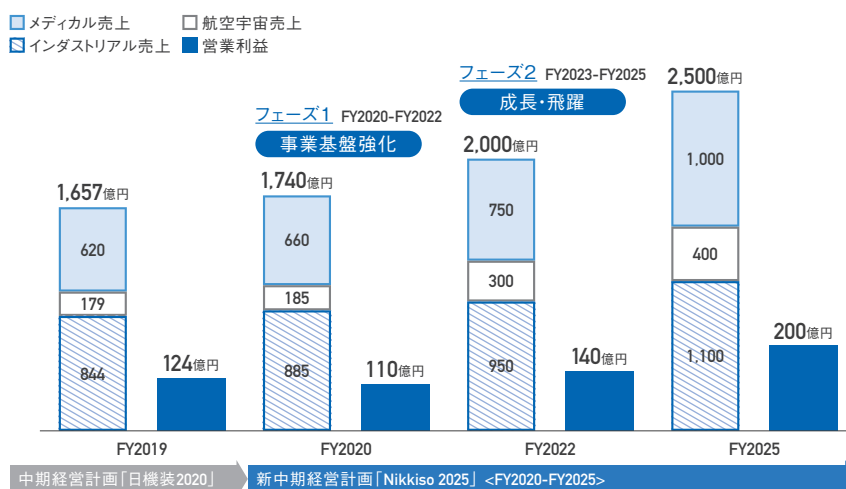
2019年1月1日～12月31日



“日機装2020”のその先へ

中期経営計画“日機装2020”が2016年に始まってから2019年までの4年間、私たち日機装は未来の夢に向かって様々な挑戦を続けてきました。液化天然ガス関連機器市場や海外の血液透析医療市場、航空機部品市場など将来性のある分野へ経営資源の配分を強化する一方で、成長性が見込みにくい分野、非採算事業などを整理し、また、技術開発や製造現場のモノづくり力の強化のための方策を模索してきました。

このような背景のもと、今取り組むべき課題を明確にし、道筋をつけるために具体的な目標を設定した、新中期経営計画を発表しました。新中期経営計画“Nikkiso 2025”では、6年後の2025年の日機装のあるべき姿を描き、初めの3年は生産拠点の再編成や技術開発拠点の整備、販売戦略の実現に向けた戦力の強化などを主眼とし、後半の3年で存分に業績への反映を図る計画です。



事業基盤を強化し、2025年に向けて成長・飛躍します



代表取締役社長 甲斐 敏彦

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに日機装の2019年12月期（第79期）の事業概況をご報告いたします。

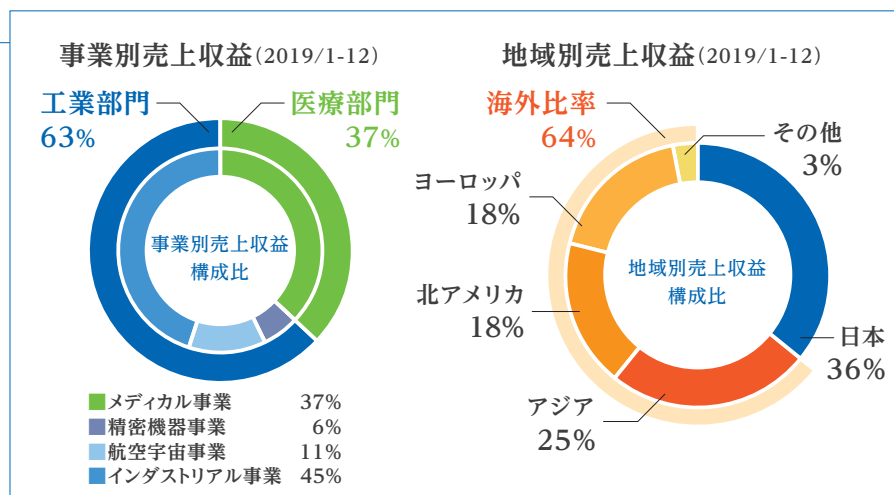
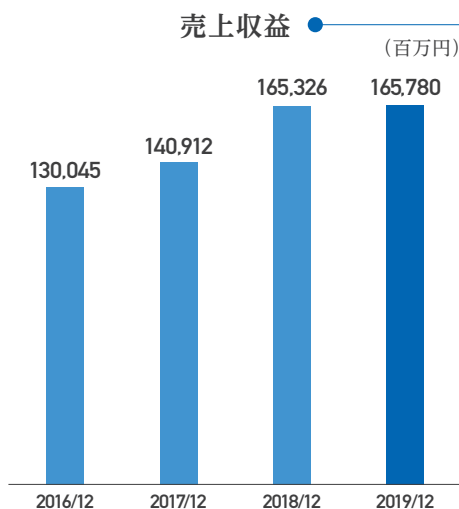
当期の業績について

当期（2019年12月期）の業績は、受注高1,670億円、売上収益1,657億円、営業利益124億円、税引前利益113億円、親会社の所有者に帰属する当期利益68億円となりました。

工業部門では、LEWA社の中核事業である上流分野の引合いが順調に回復し、下流分野やアフターセールスの営業強化も寄与して、前期比で増収増益となりました。また、LNG市場の成長を受けて、Cryogenic Industriesグループ（以下、CIグループ）のLNG関連製品の販売も好調でした。インダストリアル事業全体では、中東向け案件の減少やユーロ安による為替影響等により減収となりましたが、収益面では、LEWA社やCIグループの業績改善が寄与し、増益を確保しました。精密機器事業は、粉体計測機器事業譲渡等により受注高・売上収益は前期比で減少しました。航空宇宙事業は受注高・売上収益ともに底堅く推移し、前期比で増加しましたが、宮崎工場の立ち上げに伴う経費増加により減益となりました。また、深紫外線LED事業は、合併会社との契約に基づくライセンスの許諾等に係る収入や開発受託料を当第3四半期から収益計上しています。以上の結果、工業部門全体では前期比で減収増益となりました。

医療部門は、国内血液透析装置の買い替えサイクルの長期化の影響等により装置販売は苦戦したものの、中国や欧州など海外向けの装置販売が堅調に推移し、国内の消耗品販売も増加したため、前期比で増収となりました。収益面では、製品開発費用等の増加

業績ハイライト



や、CRRT（急性血液浄化療法）事業における減損損失の計上によって、医療部門全体では増収減益となりました。

その他、粉体計測機器事業の株式売却益を計上しました。以上の結果、全社では前期比で増収増益となりました。

来期の見通しについて

2016年12月期にスタートした中期経営計画「日機装2020」を推進する中で、CIグループ買収によるLNG関連事業の強化や、宮崎、ベトナムでの新工場建設など成長投資を加速するとともに、不採算事業や主軸事業との親和性が相対的に低い周辺事業の売却など経営資源の再配分を行ない、各事業セグメントにおいて成長に向けた道筋を明確にしてきました。一方、その成長を確実なものとするために克服すべき課題も浮き彫りになってきたため、外部環境の変化や国内外の課題認識を反映した新中期経営計画「Nikkiso 2025」を策定しました。前半の3ヵ年は「事業基盤の強化」を主眼とし、「日機装2020」で将来を見据えて取り組みを始めた技術力の向上と生産体制の再編、並びに国内と海外で一体となったグローバルベースでの事業推進体制の強化を実現します。後半の3ヵ年はその成果を結実させる時期と位置付け、「Nikkiso

2025」の最終事業年度である2025年12月期には、売上収益2,500億円、営業利益200億円の達成を目指しています。

新中期経営計画「Nikkiso 2025」の折り返し地点となる2022年までに東村山製作所の技術開発拠点化、金沢製作所の生産能力増強を実現するため、初年度にあたる2020年12月期は、宮崎インダストリアル工場の建設や静岡の物流拠点化など事業基盤強化の核となる施策を推進します。生産拠点整備に伴う投資や経費が増加し収益面では厳しい局面となりますが、LNG関連事業や血液透析事業、航空機関連事業など、当社の主力事業は世界的に成長を続けており、引き続き取り組むべき施策を着実に実行することにより、持続的な成長と企業価値向上を目指します。

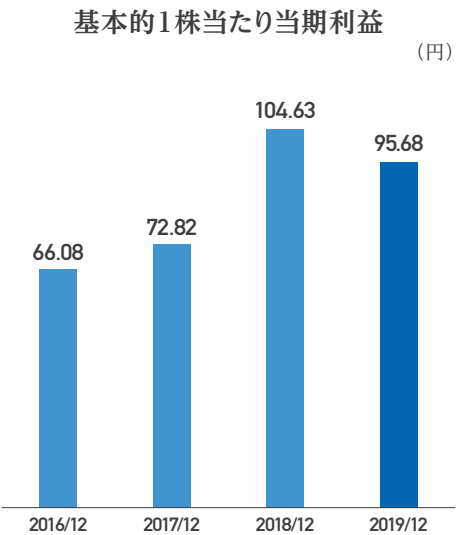
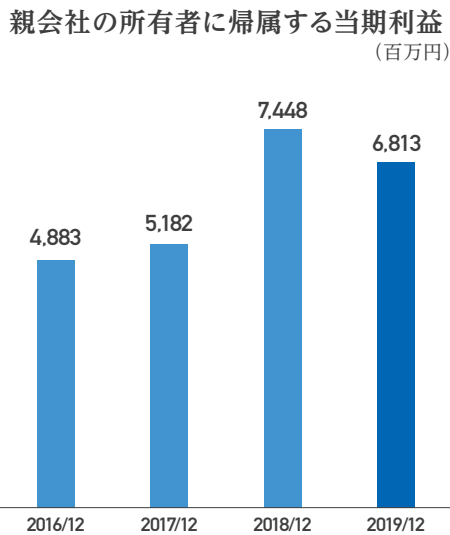
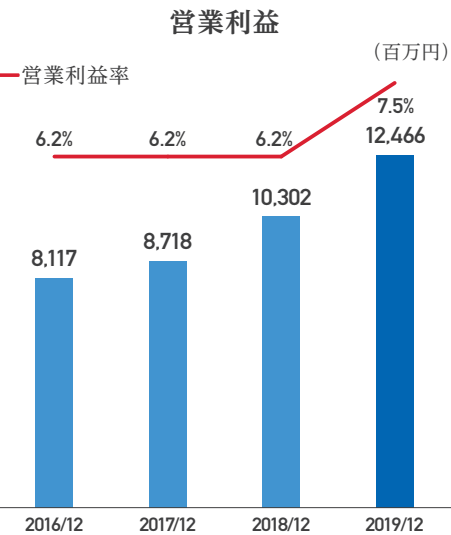
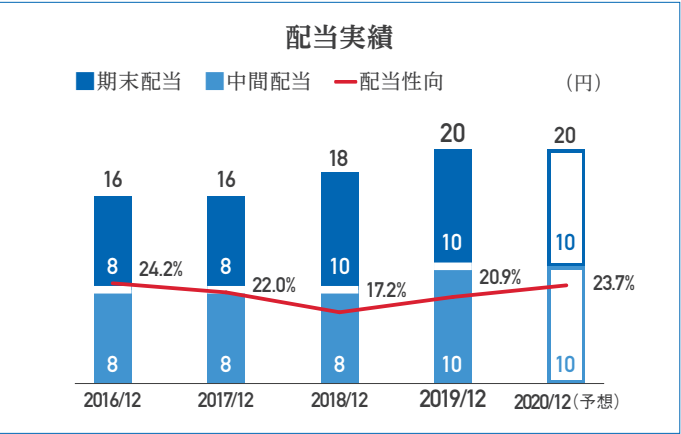
株主還元について

当社は、財務健全性、資本効率および株主還元の最適なバランスを追求しつつ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していくことを基本的な資本政策としています。

当期の期末配当金は、1株当たり10円、年間配当総額は1株につき20円とさせて頂きました。また、次期の年間配当についても今期と同じく、1株当たり20円を予定しています。

当期実績と来期業績予想				
	当期実績 2019年12月期 (2019/1/1-12/31) [IFRS]	来期業績予想 2020年12月期 (2020/1/1-12/31) [IFRS]	前年同期比	
			増減額	増減率
受 注 高	167,034	177,000	9,965増	6.0%増
売 上 収 益	165,780	174,000	8,219増	5.0%増
営 業 利 益	12,466	11,000	1,466減	11.8%減
税引前利益	11,381	10,000	1,381減	12.1%減
親会社の所有者に帰属する 当期利益	6,813	6,000	813減	11.9%減

※ 来期業績予想の前提としている為替レートは、109円／米ドル、120円／ユーロです。

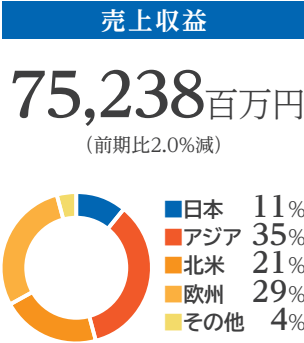


事業概況

工業部門	売上収益	セグメント利益	医療部門	売上収益	セグメント利益
	103,734百万円 (前期比0.7%減)	10,851百万円 (前期比33.3%増)		62,046百万円 (前期比2.0%増)	3,447百万円 (前期比38.2%減)

■ インダストリアル事業

ポンプ・システム製品の製造・販売・メンテナンスを行っています。

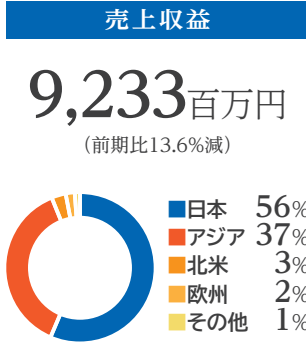
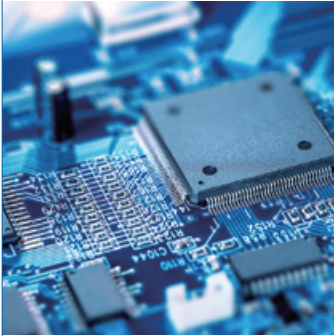


当期のポイント

- LEWA社では、上流分野の引合いが順調に回復し、下流分野やアフターセールスの営業強化も寄与して、前期比で増収増益。
- LNG受入基地で利用される大型のクライオジェニックポンプの引き合いおよび受注が好調を維持。Cryogenic Industriesグループは、販売伸長、償却負担の軽減効果により、前期比で増収増益。
- インダストリアル事業全体では、中東向け案件の減少やユーロ安による為替影響等により減収となるも、収益面では、LEWA社やCIグループの業績改善が寄与し、増益を確保。
- グループ一体での営業戦略の推進による拡販、宮崎でのクライオジェニックポンプ試験設備建設によるLNG需要増への対応力強化、インダストリアル工場の建設による技術力・生産力強化を図る。

■ 精密機器事業

発電プラント向け水質調整装置・電子部品製造関連装置等の製造・販売・メンテナンスを行っています。

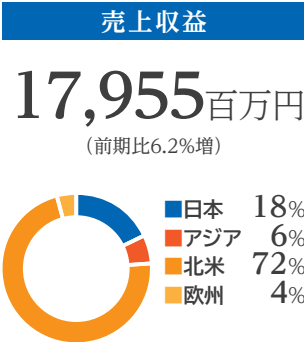


当期のポイント

- 発電所関連機器は、国内市場は低迷したものの、海外、特に東南アジア向けの水質調整装置の引合いが増加傾向。
- 電子部品製造機器は、電子部品市場の減速により、受注高は減少するも、既受注案件の生産・出荷は順調に進展。今後、「5G」の世界的需要拡大を受けた当社装置の受注増加を見込む。
- 2019年7月に粉体計測機器事業を譲渡したため、精密機器事業全体では受注高・売上収益は前期比で減少。

■ 航空宇宙事業

航空機の逆噴射装置用関連部品を中心に炭素繊維強化プラスチック製品の製造・販売を行っています。

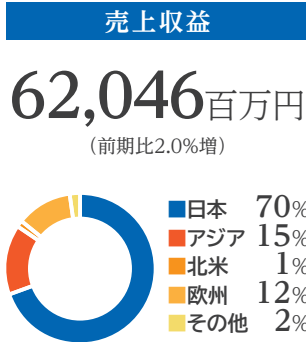


当期のポイント

- 小型機（単通路機）を中心とした民間航空機需要は東南アジアを中心に拡大傾向が続き、当社への引合いも順調に増加。当期は、米ボーイング737MAX向けの製品出荷に大きな影響なし。
- 主力製品のカスケードおよびエンジン部品の出荷が伸長したことにより、前期比で増収。
- 宮崎工場の立ち上げに伴う減価償却費等の経費増加により減益。宮崎工場で新規開発したA320neoPW カスケードを10月に初出荷。引き続き、生産技術・新技術の開発を推進。
- 2019年12月に静岡での生産終了、他工場への生産移管完了。生産拠点、生産体制の集約・最適化を引き続き進めるとともに、宮崎工場の安定稼働、ベトナム第2工場の活用による収益力向上を図る。

■ メディカル事業

血液透析に関連した製品や、人工臓器装置などの医療機器の製造・販売・メンテナンスを行っています。



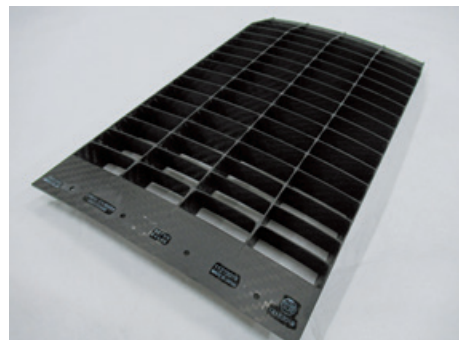
当期のポイント

- 国内血液透析装置は、買い替えサイクルの長期化の影響等により販売はやや低調。当第3四半期より発売開始の新型装置は治療の安全性や利便性並びに経済性が高く評価され、引合い伸長。
- 国内消耗品は、血液回路や粉末型人工腎臓透析用剤を中心に販売が伸長。海外市場は、中国や欧州での血液透析装置の販売が堅調。
- 今後、国内市場は、新型血液透析装置の市場浸透と普及拡大、サービス体制の強化を図る。海外市場は、当社装置の機能に対する評価が高い欧州、東南アジア、中国、米国での拡販を推進。
- CRRT（急性血液浄化療法）事業の業績悪化により減損損失を計上。メディカル事業全体では前期比で増収減益。

宮崎日機装からBombardier社向けA320neo PW カスケード初出荷

2019年10月15日、宮崎日機装からBombardier社向けの新規開発カスケードの初出荷を行いました。今回初出荷した開発品カスケードは、Bombardier社が参加するエアバスA320neo用 Pratt Whitney社製エンジンナセルプログラム向けのものです。

宮崎日機装は昨年末より民間旅客機向けカスケードの他、コンポジット製品の開発、製造および関連生産技術・新技術の研究開発拠点として事業を開始しましたが、今回のBombardier社向けA320neo PW カスケードは宮崎日機装における記念すべき最初の開発品となりました。



2021年に量産フェーズに移行する予定の同製品は、年間約10～15億円程度の売上を見込み、宮崎日機装にて製造される他のカスケードと並ぶ当社の主力製品となることが期待されています。

現在の航空機市場で非常に需要の高いA320neo向けカスケードの受注により、カスケード製造にて世界トップシェアを誇る当社は市場での存在感をより確固たるものとする事となりました。

株主様向け工場見学会開催報告

2019年10月11日、株主様向け工場見学会を、宮崎日機装にて開催しました。今回は25名の株主様にご参加頂きました。

当日は、宮崎日機装の西脇社長のあいさつにはじまり、主力の航空機部品カスケードの製造工程に沿って、航空宇宙工場を見学頂きました。



また、展示室では、ブレーキを補助するカスケードの役割をご理解頂くため、実物大の航空機エンジンナセル模型を使って着陸時の動きを見て頂いたり、クライオジェニックポンプや航空機の翼部品など実際の製品にも触れて頂きました。

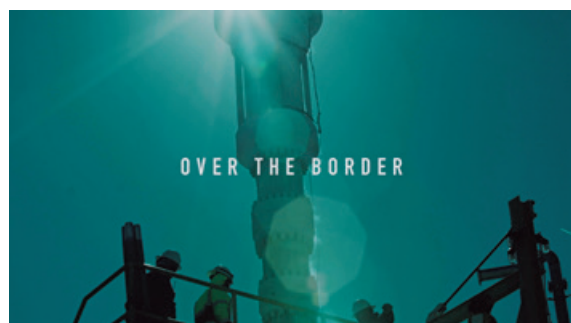
ご参加頂いた皆様からは、「普段はなかなか見られない実際の製品がたくさん展示されていてわかりやすかった。」等のコメントを頂きました。

今後もより良い工場見学会が開催できるよう努めてまいります。



お知らせ

日機装の会社紹介動画が完成しました



日機装の使命や製品に対する想いを通じ、日機装の魅力を表現した会社紹介動画（90秒）と、日機装の各事業についてわかりやすく説明した事業紹介動画（17分）の2種類の動画を新たに制作しました。

新しい会社紹介動画は下記よりご覧いただけます。

日機装HP：<https://www.nikkiso.co.jp/>

会社概要

創業日 1953年（昭和28年）12月26日
（登記上の設立日は1950年3月7日）
資本金 6,544,339,191円
従業員数 連結8,491名（単体2,044名）

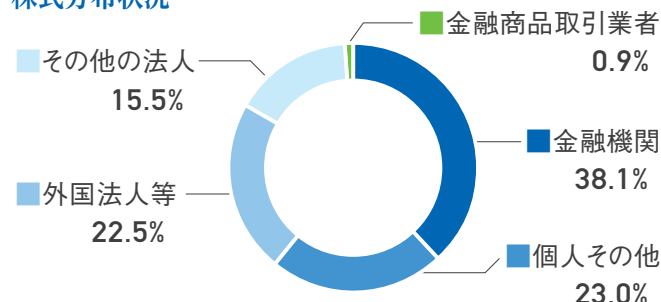
役員・執行役員 (2020年1月1日現在)

代表取締役 社長	甲斐敏彦
取締役 副社長	中村洋
取締役 執行役員	中東久和
取締役 執行役員	木下良彦
取締役 執行役員	長門祥一
取締役 執行役員	山村優
社外取締役	長友英資
社外取締役	広瀬晴子
常勤監査役	満身俊明
常勤監査役	飛田健司
社外監査役	中久保満昭
社外監査役	棟田裕幸
執行役員	小糸晋
執行役員	泉幸慶
執行役員	渡辺恭介
執行役員	大澤晃
執行役員	中村干城
執行役員	戸村健二
執行役員	竹内基裕

株式の状況

発行可能株式総数 249,500,000株
発行済株式の総数 74,286,464株
（うち自己株式3,067,681株）
株主数 7,678名

株式分布状況



大株主一覧 (上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,766	5.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,042	4.27
日機装持株会	2,689	3.77
株式会社みずほ銀行	2,500	3.51
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	2,101	2.95
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.76
日機装従業員持株会	1,749	2.45
富国生命保険相互会社	1,700	2.38
日本生命保険相互会社	1,650	2.31
株式会社三菱UFJ銀行	1,622	2.27

※当社は、自己株式3,067,681株を保有していますが、上記大株主から除いています。
※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会：毎年12月31日 期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
<郵便物送付先>	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
<電話照会先>	0120-782-031（フリーダイヤル）
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ホームページアドレス	https://www.nikkiso.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード6376）

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等の取り扱い先について

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求につきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で取り扱います。お取引をされている証券会社等にお問い合わせください。

なお、特別口座にて管理されている株式については、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社での取り扱いとなります。お問い合わせ先は上記のとおりです。